

令和6年度 学校評価 各学部・分掌重点目標 及び年度末評価 一覧

石見養護学校 学校運営協議会 R7.2月

石見養護学校 学校運営方針「みちしるべ」より

|               |  |
|---------------|--|
| 令和6年度<br>重点目標 | ①「対話を通じた学校づくり」 (豊かな心・コミュニケーション力)<br>◇めざす学校の姿 「健康で安全・安心に生活できる学校」<br>◇めざす児童生徒の姿 「礼儀正しく思いやりのある児童生徒」<br>◇めざす教職員の姿 「確かな人権感覚をもち豊かな人間性あふれる教師」   |
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>*自立活動を中心に全教育活動、日々の学習の中で、伝えたい思いを育て伝える手段を豊かにする。</li> <li>*相手に「伝える」「伝わる」を確認し、相手を思いやり、理解しようとする姿勢で対話をする。</li> <li>*人権意識を高め、お互いを尊重し合いながら、安心できる関係性の中で対話ができる教職員集団をめざす。</li> </ul> ②研修による専門性の向上 <ul style="list-style-type: none"> <li>・OJTによる学び合い、高め合う教職員集団をめざす。</li> <li>・自己目標に自身の重点をおきたいテーマを掲げ、研修や実践につなげる。</li> </ul> ※今年度のキーワードは「継続 発信!!」～誰に何をどのように伝えるかを考えよう。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等の後は、HP掲載へ：掲載したことを教職員・保護者へ知らせる。</li> <li>・保護者へ児童生徒の姿の伝えの具体化、見える化に努める。</li> </ul> |

|   |
|---|
| 《学校教育目標》 夢をはぐくみ、未来を生き抜く力を育てる<br>1 学習に主体的に向かい、あきらめないで最後まで取り組む強い意志と態度を育てる<br>2 教育活動全体を通じて、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション力を育てる<br>3 「ひと・もの・こと」の出会いを通して、思いやりの心や豊かな感性を育てる |
| 以上3点のうち、今年度は、特に「3」の目標に重点をおき、それを受けためざす姿について重点目標を掲げ、評価の対象にして取り組む  |

【 評価基準 】  
1 よくできている 2 できている 3 やや不十分 4 不十分 5 わからない

| 担当学部・分掌                       | 重点目標    | 具体的方策(手立て)   | ○評価指標 ★規準   | 評価者   | 評価方法  | 中間評価     | 年度末評価 |     |    |    |    | 年度末評価 | 意見：○良い点 ◆改善点・改善策 |   |  |
|-------------------------------|---------|--|---|---|-------|----------|-------|-----|----|----|----|-------|------------------|---|--|
|                               |         |  |   |   |       |          | 人数(%) | 1   | 2  | 3  | 4  |       |                  | 5 |  |
| ①対話を通じた学校づくり(豊かな心・コミュニケーション力) | 小 中学部   | 伝えたい思いを育て、自分から相手に伝えられる力を養う。                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「伝えたい思い」を育てるために、児童生徒との日々の関わりを大切にするとともに、様々な人やもの、ことと出会ったり、思いを伝えたりできる場を設定する。</li> <li>・自分から思いを伝えられるように実態に応じた伝え方を考えたり、支援したりする。</li> </ul> | ○児童生徒の変容前と変容後の具体的な姿(学期ごと)<br>★以下の視点で変容を話し合う <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝え方(手段・方法)</li> <li>・自分から伝えられた回数(増減)</li> <li>・伝えようとした内容、質</li> </ul> | 教職員   | 情報交換話し合い | A     | 自己  | 4  | 5  | 1  | 0     | 0                | A | ○児童生徒一人一人について、3つの視点で変容を評価した結果、それぞれの児童生徒に成長を確認することができた。<br>○児童生徒との日々のやりとりの中で、しっかり思いが伝えられるように時間をとったり、詳しく話することができるように質問を重ねて聞いたりしながら関わった。<br>○写真カード、手話等、児童生徒一人一人の実態にあった伝え方を考えたり、支援したりすることができた。<br>○児童生徒の実態に応じた関わり方について、それぞれの学部や学級で検討し、共通理解しながら指導することができた。<br>◆相手により伝わるように表現したり、場や状況、相手に応じた言い方や言葉遣いを身に付けたりできるよう支援していくことが次の課題である。  |
|                               | 高等部     | 自分から進んで挨拶をしたり、相手の気持ちを考えた発言や行動をしたりする力をつける。          | <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常の活動の中で、生徒から挨拶をしたり、気持ちが発信できるような場面をつくる。</li> <li>・不適切な発言や行動が見られた時は、その場で(場合によっては場面を変えて)声かけや指導を行う。</li> </ul>                           | ★教員アンケートの結果「よい」「向上した」「できた」の割合が<br>80%以上：A<br>60%以上：B<br>40%以上：C<br>39%以下：D  | 高等部教員 | アンケート    | B     | 自己  | 0  | 18 | 0  | 0     | 0                | A | ○生徒たちから挨拶をしたり、はっきりと挨拶ができた生徒が増えた。<br>学部外の教員にも、自分から挨拶をしたり、挨拶を返したりする生徒が1学期と比べて増えたと感じられる。<br>○実態に応じて、自分から発信できるような支援グッズを使ったり、場に合った行動がとれるよう働きかけができた。<br>○不適切な言動への指導は、生徒の実態からなかなか入らないことが多いが、繰り返しの指導ができていく。<br>○不適切な事象に対する対応が早く、適切に行われていた。<br>◆言葉遣いやコミュニケーションの取り方に課題がみられる。<br>⇒・いろいろな学習の場面で、ことばの伝え方や適切な発言ができるようにその場、その場で指導をしていく。<br>⇒・子ども支援部と連携し、「あいさつ運動」等全体で取り組める期間を設定していく。 |
|                               | 舎務部 寄宿舎 | 場に応じた言葉遣いや相手の話を最後まで聞く力をつける。                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務室での言葉遣い(挨拶、お願いの仕方)に気を付けるように伝え、指導員間で共通した指導を行う。</li> <li>・話し合い活動の前に気を付ける言動について伝える。</li> </ul>   | ○言葉遣いの学習会の実施<br>★学期に1回<br>○生徒の変容<br>★月1回指導員会での情報共有  | 指導員   | 実績話し合い   | B     | 自己  | 0  | 9  | 2  | 0     | 0                | A | ○毎月会議の時に振り返る時間をもち、指導員全体で共通理解する機会が増えた。<br>○勉強会や日々の生活の中でも言葉かけをすることができた。<br>○生徒のアンケートでは「言葉遣いに気をつけて生活している」と答えた生徒が中間評価の時よりも増えている。<br>・挨拶や言葉遣いについては今後も継続した支援や指導をしていく。  |
|                               | 人権教育    | 人権意識を高め、お互いを尊重し合いながら、安心してできる関係性の中で対話ができる教職員集団を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・年度当初「人権意識に関するアンケート」実施し、教職員研修の内容を検討して実施する(年間3回実施)</li> <li>・各学部、寄宿舎において、教職員向けの「人権標語」を作成し掲示する。</li> </ul>                               | ○学校評価アンケートにおける人権意識に関する項目の結果<br>★人権意識を高めることができたと感じる人数～80%以上。   | 教職員   | アンケート結果  | A     | 自己  | 8  | 37 | 0  | 0     | 0                | A | ○人権意識を高める取組を定期的に取り入れたことで、日ごろから人権意識を振り返り、より高め合うことができていく。<br>・人権標語を作成するだけではなく、標語を継続して意識できるような取組を工夫していく。  |
|                               |         |  |   |   |       | 全体       | 18%   | 82% | 0% | 0% | 0% |       |                  |   |  |
|                               |         |  |   |   |       | 中間%      | 14    | 83  | 4  | 0  | 0  |       |                  |   |  |

| ① 対話を通じた学校づくり(豊かな心・コミュニケーションカ) | 教務部                             | 豊かな感性を育む一助となるよう、図書(館)との出会いを推進する。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>「トショトモ」を開催し、図書(館)と親しむ機会を設ける。</li> <li>各学級に「学級文庫の希望アンケート」を実施し、アンケート結果をもとに、学級文庫の充実を図る。</li> <li>「LibraryLetter」を通じ、新しい本の紹介やトショトモの活動のお知らせ等を行う。</li> <li>季節の本や〇〇週間に合わせた図書等の展示コーナーの充実を図る。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>「トショトモ」の開催<br/>★学期に1回</li> <li>学級文庫の希望アンケート結果を反映する<br/>★学期に1回</li> <li>「LibraryLetter」の発行<br/>★学期に1回</li> </ul> | 教職員   | 実績 | B  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>人数(%)</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自己</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>20%</td> <td>80%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>13</td> <td>34</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>28%</td> <td>70%</td> <td>2%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間%</td> <td>29</td> <td>69</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> | 人数(%) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5  | 自己 | 1 | 4 | 0 | 0 | 0 | %   | 20%  | 80% | 0% | 0% | 0% | 全体 | 13 | 34 | 1 | 0 | 0 | %   | 28% | 70% | 2% | 0% | 0%  | 中間% | 29  | 69 | 2  | 0  | 0 | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>トショトモが図書に足を運びきっかけになり、楽しみになっていたり、他学部との児童生徒との関りの場になったりしていたという評価があった。ある程度、図書との出会いを推進できた。</li> <li>図書館入り口にトショトモを知らせるボードを作り、広く周知できるように努めた。</li> <li>学級文庫や季節の図書の展示コーナー、「LibraryLetter」を通して、面白そうな本を見つけたり、図書を手に取ってみたりと、図書に親しむことにつながった。</li> <li>来年度も引き続き、トショトモを開催するとよい。他校の取組等を参考にし、様々な児童生徒の関心に触れる内容で開催できるとよい。</li> </ul> |
|--------------------------------|---------------------------------|---|--|--|-------|----|--|---|-------|---|---|---|---|----|----|---|---|---|---|---|-----|------|-----|----|----|----|----|----|----|---|---|---|-----|-----|-----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|---|--|---|
|                                | 人数(%)                           | 1   | 2  | 3  | 4     | 5  |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
|                                | 自己                              | 1   | 4  | 0  | 0     | 0  |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| %                              | 20%                             | 80%   | 0%   | 0%   | 0%    |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| 全体                             | 13                              | 34  | 1  | 0  | 0     |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| %                              | 28%                             | 70%   | 2%   | 0%   | 0%    |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| 中間%                            | 29                              | 69  | 2  | 0  | 0     |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| 子ども支援部                         | 自他を認め合い、共に活動に取り組もうとする児童生徒を育成する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活全般で(学習活動、行事、全校特活、児童生徒会活動等)で「キラりんいわみ」の取組をすすめる。(教職員:児童生徒へ児童生徒:自分へ仲間へ)</li> <li>保護者にも周知し、「キラりんいわみ」の取組をすすめる。</li> <li>仲間の前で、お互いの良さを認め合う場を設定する。</li> <li>学期に1回は、児童生徒が、仲間の良さを考えて「キラりんいわみ」の取組を行う機会を設定する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>キラりんいわみの取組児童生徒、保護者、教員へ周知され、取り組みが推進されたか。</li> <li>★児童生徒向け、教職員向け、保護者向けキラりんアンケートによる肯定的意見~80%以上</li> </ul>  | 児童生徒<br>教職員<br>保護者   | アンケート | B  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>人数(%)</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自己</td> <td>0</td> <td>8</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>9</td> <td>33</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>20%</td> <td>74%</td> <td>2%</td> <td>0%</td> <td>4%</td> </tr> <tr> <td>中間%</td> <td>24</td> <td>75</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>       | 人数(%)   | 1     | 2 | 3 | 4 | 5 | 自己 | 0  | 8 | 0 | 0 | 0 | % | 0%  | 100% | 0%  | 0% | 0% | 全体 | 9  | 33 | 1  | 0 | 2 | % | 20% | 74% | 2%  | 0% | 4% | 中間% | 24  | 75  | 0  | 0  | 1  | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>「キラりんいわみ」の取組について、年間を通して肯定的な評価をされており、継続的に実施することで学校に取組が定着しつつある。児童生徒が友だちや先輩、後輩に対して書く姿も増えた。</li> <li>保護者の取組参加については、長期休みを活用して記入する機会を設定した。各家庭のところで可能な限りご協力していただき、取組を進めることができた。</li> <li>◆保護者以外の外部来校者に対する取組参加の促しは、来校者への負担増や日程の都合を鑑み、実施にまでは至らなかった。⇒既存の学校見学や体験等で記入してもらっている感想を活用し、了承を得たものについては「キラりんいわみ」として掲示して、より児童生徒の良さが伝わるようにしたい。</li> <li>◆各学部集会の機会を活用し、一部抜粋した「キラりんいわみ」の紹介をする時間を設定することを改善案として挙げていたが、2学期までのところでは実施ができなかった。</li> <li>◆2学期の「キラりんいわみ」のメッセージの記入数が期末まで少なかったことから、児童生徒に紹介する形でまとめることが難しかった。⇒どのように抜粋するのか、児童生徒の実態から具体名を挙げるべきなのか等、分掌で検討し、3学期末のところまで実施を目指したい。</li> <li>◆2学期の行事(もりもり祭等)で体育祭のように児童生徒同士のコメントを「キラりんいわみ」に反映することができなかった。⇒行事後の各学部の振り返りと事前に連携し、児童生徒のコメントを共有することで、1学期と同様に反映できるようにしたい。</li> </ul> |   |
| 人数(%)                          | 1                               | 2   | 3  | 4  | 5     |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| 自己                             | 0                               | 8   | 0  | 0  | 0     |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| %                              | 0%                              | 100%  | 0%   | 0%   | 0%    |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| 全体                             | 9                               | 33  | 1  | 0  | 2     |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| %                              | 20%                             | 74%   | 2%   | 0%   | 4%    |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| 中間%                            | 24                              | 75  | 0  | 0  | 1     |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| ①を支える基盤                        | 保健部                             | 健康で安心した学校生活を送られるように児童生徒の健康相談の充実を図る。   | <ul style="list-style-type: none"> <li>健康相談を実施し、児童生徒の心の安定を図り健康に過ごせるようにする。</li> <li>学級担任や学部、校内支援コーディネーターと連携を図り、指導方法等について共有する。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校医と連携しての健康相談実施<br/>★年3回</li> <li>個別相談の実施<br/>★随時</li> <li>健康相談事業の周知及び活用<br/>★毎学期ごと</li> </ul>                  | 教職員   | 実績 | B  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>人数(%)</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自己</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>25%</td> <td>75%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>14</td> <td>28</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>31%</td> <td>62%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>中間%</td> <td>22</td> <td>78</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table> | 人数(%) | 1 | 2 | 3 | 4 | 5  | 自己 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | %   | 25%  | 75% | 0% | 0% | 0% | 全体 | 14 | 28 | 0 | 0 | 3 | %   | 31% | 62% | 0% | 0% | 7%  | 中間% | 22  | 78 | 0  | 0  | 0 | A  | <ul style="list-style-type: none"> <li>健康相談を年3回実施し、担任を中心に児童生徒の困りごとや対応についての相談を実施できた。</li> <li>今年度は、保健部員からも健康相談の活用を担任や学部呼びかけるようにした。</li> <li>児童生徒の個別相談の希望を受け、必要に応じて行ったり、定期的に行ったりすることで、児童生徒が安心して学校生活を過ごせるようにしている。</li> <li>相談部会を活用したり、学級や学部と連携をとったりしながら支援方法等についての共有を図ることができている。</li> <li>学校精神科医による健康相談を保護者にも活用していただけるように呼びかけを継続して行っていきたい。</li> </ul>       |
| 人数(%)                          | 1                               | 2   | 3  | 4  | 5     |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| 自己                             | 1                               | 3   | 0  | 0  | 0     |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| %                              | 25%                             | 75%   | 0%   | 0%   | 0%    |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| 全体                             | 14                              | 28  | 0  | 0  | 3     |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| %                              | 31%                             | 62%   | 0%   | 0%   | 7%    |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| 中間%                            | 22                              | 78  | 0  | 0  | 0     |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| 事務部                            | 安心・安全な学校づくり                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>事故やケガを未然に防ぐ。そのため日常的に学校施設に目配りをする。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学校施設に起因する事故やケガを防ぐ</li> <li>★施設不備による事故発生0</li> </ul>   | 教職員  | 実績    | B  | <table border="1"> <thead> <tr> <th>人数(%)</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自己</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>25%</td> <td>75%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>14</td> <td>30</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>31%</td> <td>62%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>7%</td> </tr> <tr> <td>中間%</td> <td>26%</td> <td>74%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> | 人数(%)   | 1     | 2 | 3 | 4 | 5 | 自己 | 1  | 3 | 0 | 0 | 0 | % | 25% | 75%  | 0%  | 0% | 0% | 全体 | 14 | 30 | 0  | 0 | 3 | % | 31% | 62% | 0%  | 0% | 7% | 中間% | 26% | 74% | 0% | 0% | 0% | A | <ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な学校施設への目配りができていた。</li> <li>修繕等の対応や施設改善等の要望に対して、迅速に実施することができた。</li> <li>今年度の安全対策の修繕等の主な内容は以下のとおり <ul style="list-style-type: none"> <li>職員駐車場の安全コーン設置</li> <li>校庭側道の横断歩道設置</li> <li>窓側のファンコイルの撤去</li> <li>CR8のエアコン更新</li> <li>寄宿舎のコンロの取り換え</li> </ul> ⇒ 今後は、事務部で対応した修繕等についても、職員へチャットなどで周知できるようにする。</li> <li>教職員や児童生徒とのコミュニケーションを図り、安心して相談できる事務部の体制をつくることができている。</li> <li>不審者対応のための防犯ツールを改善したことで、初期対応速度が上がったと思われる。</li> </ul>  |   |
| 人数(%)                          | 1                               | 2   | 3  | 4  | 5     |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| 自己                             | 1                               | 3   | 0  | 0  | 0     |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| %                              | 25%                             | 75%   | 0%   | 0%   | 0%    |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| 全体                             | 14                              | 30  | 0  | 0  | 3     |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| %                              | 31%                             | 62%   | 0%   | 0%   | 7%    |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |
| 中間%                            | 26%                             | 74%   | 0%   | 0%   | 0%    |    |  |   |       |   |   |   |   |    |    |   |   |   |   |   |     |      |     |    |    |    |    |    |    |   |   |   |     |     |     |    |    |     |     |     |    |    |    |   |  |   |

| ②専門性の向上 | 研究部   | 個々の専門性の向上のために一人一人の興味・関心に応じた研修、研究図書のご案内に努める。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の一人一人の研修希望のアンケートを実施し、希望研修内容を把握する。</li> <li>・研修の案内に目を配り、一人一人のニーズに合った研修を案内する。</li> <li>・前期、後期と研究図書の希望を募り、ニーズにあった本を購入する</li> </ul>                                 | <ul style="list-style-type: none"> <li>○各自への研修案内<br/>★一人につき年2回</li> <li>○教職員研究図書だより発行<br/>★前、後期に1回発行</li> </ul>  | 教職員 | 実績 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>人数(%)</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自己</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>0%</td> <td>100%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>7</td> <td>37</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>16%</td> <td>82</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>中間%</td> <td>16%</td> <td>76%</td> <td>5%</td> <td>0%</td> <td>3%</td> </tr> </tbody> </table>      | 人数(%) | 1 | 2   | 3 | 4 | 5 | 自己 | 0 | 4 | 0 | 0 | 0 | % | 0%  | 100% | 0% | 0% | 0% | 全体 | 7  | 37 | 0 | 0 | 1 | % | 16% | 82  | 0  | 0  | 2  | 中間% | 16% | 76% | 5% | 0% | 3% | B | A | <p>○年度当初にアンケートをとったことで各自のニーズを知り案内することができた。<br/>◆ニーズに沿った研修を見つけることで案内できないものがあった。<br/>⇒・分掌部員で新聞や各機関からの広報、専門誌等に気を配って見つけられるようにしたい。<br/>○教職員研究図書だよりを前、後期に1回発行ができた。<br/>◆紹介するのを購入した図書にこだわって発行が遅れた。<br/>⇒・購入予定のものやこれまでに購入したものを伝える方法で早めに情報を共有していきたい。</p> <p>◆専門的な研修を受けた内容を、児童生徒の指導へ還元したり教職員へ広げたりできていないという反省の意見あり。<br/>⇒・研究部としてまとめて伝えることもできる。<br/>皆で共有して学びたい内容や研修の仕方について、研究部へ積極的に意見をもらえると良い。<br/>◆研修を受けに出る余裕がなかったという意見あり。<br/>・様々な気を使うこともあるがお互い様という意識で思い切って出かけて欲しい。<br/>教務にも相談をして、積極的に研修に出ることを考えて欲しい。</p> |
|---------|-------|--|--|--|-----|----|--|-------|---|---|---|---|---|----|---|---|---|---|---|---|-----|------|----|----|----|----|----|----|---|---|---|---|-----|-----|----|----|----|-----|-----|-----|----|----|----|---|---|--|
| 人数(%)   | 1     | 2  | 3  | 4  | 5   |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| 自己      | 0     | 4  | 0  | 0  | 0   |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| %       | 0%    | 100%   | 0%   | 0%   | 0%  |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| 全体      | 7     | 37   | 0  | 0  | 1   |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| %       | 16%   | 82   | 0  | 0  | 2   |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| 中間%     | 16%   | 76%  | 5%   | 0%   | 3%  |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| ※継続・発信  | 総務部   | 地域の資源「ひと・もの・こと」や地域と連携した取組についての情報発信を行い、地域と連携協働した学習を推進する。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域連携CDとの連携し、校内へ地域の「ひと・もの・こと」の情報発信を行う。</li> <li>・地域と連携協働した学習の年間計画や進捗状況について、地域連携担当者会で確認したり校内に発信したりする。</li> <li>・校外に地域と連携協働した学習の実践紹介をする。</li> </ul>                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域の資源情報の発信<br/>★年間3回以上</li> <li>○邑南町体験研修の実施<br/>★夏季休業中に1回</li> <li>○地域連携担当者会の実施<br/>★年6回以上</li> <li>○各取組を校内に情報発信<br/>★実施率8割</li> <li>○地域と連携協働した学習のWEB発信を計画的に実施<br/>★実施率8割</li> </ul> | 教職員 | 実績 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>人数(%)</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自己</td> <td>4</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>67%</td> <td>33%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>29</td> <td>16</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>64%</td> <td>36%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>中間%</td> <td>36</td> <td>64</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>      | 人数(%) | 1 | 2   | 3 | 4 | 5 | 自己 | 4 | 2 | 0 | 0 | 0 | % | 67% | 33%  | 0% | 0% | 0% | 全体 | 29 | 16 | 0 | 0 | 0 | % | 64% | 36% | 0% | 0% | 0% | 中間% | 36  | 64  | 0  | 0  | 0  | B | A | <p>○地域の「ひと・もの・こと」資源の情報発信<br/>⇒学習に関わってくださった方にインタビューし「おおなんのヒト」を作成、週1ペースで配信できた。<br/>邑南町体験を夏季休業中に2コース実施し、延べ17名の参加があった。<br/>○学習計画や内容・取組の様子等の共有<br/>⇒地域連携担当者会を毎月実施したりチャットを活用したりして、情報共有ができた。<br/>また、「おおなんのヒト」を通して、各学級の取組も周知できた。<br/>○WEBページを活用した取組の発信<br/>⇒先生方の協力のもと、取組終了後の早い段階で発信ができた。<br/>○地域連携CDとの連携<br/>⇒各学習グループのニーズに沿った情報提供やつながり作り等とおして、学習活動を支えることができた。</p> <p>◆インスタの導入について<br/>⇒・昨年度検討したが、導入には至っていない。<br/>・WEBページでの発信に力を入れる。</p>  |
| 人数(%)   | 1     | 2  | 3  | 4  | 5   |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| 自己      | 4     | 2  | 0  | 0  | 0   |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| %       | 67%   | 33%  | 0%   | 0%   | 0%  |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| 全体      | 29    | 16   | 0  | 0  | 0   |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| %       | 64%   | 36%  | 0%   | 0%   | 0%  |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| 中間%     | 36    | 64   | 0  | 0  | 0   |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
|         | 進路指導部 | 生徒や保護者等のニーズを把握し、ニーズや個のケースに応じた適切な進路情報提供に努める。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路だより発行計画を立て、その中で、就労や福祉サービスにかかわる情報、児童生徒の進路学習の取組や卒業生の姿等を紹介し、広く情報発信を行う。</li> <li>・みらいカフェへの参加を積極的に案内し、生徒や保護者と直接話をする中で、個別のケースに応じた相談を行ったり、必要に応じて見学等を企画したりする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>○進路だよりの発行<br/>★学期に2～3回</li> <li>○みらいカフェ<br/>★参加延べ数～ 増加</li> <li>○進路研修会（生・保・教）の実施<br/>★年間計画に従って実施・案内</li> </ul>  | 教職員 | 実績 | <table border="1"> <thead> <tr> <th>人数(%)</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自己</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>50%</td> <td>50%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>全体</td> <td>18</td> <td>26</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>%</td> <td>40%</td> <td>58%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>2%</td> </tr> <tr> <td>中間%</td> <td>35%</td> <td>64%</td> <td>0%</td> <td>0%</td> <td>1%</td> </tr> </tbody> </table> | 人数(%) | 1 | 2   | 3 | 4 | 5 | 自己 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | % | 50% | 50%  | 0% | 0% | 0% | 全体 | 18 | 26 | 0 | 0 | 1 | % | 40% | 58% | 0% | 0% | 2% | 中間% | 35% | 64% | 0% | 0% | 1% | B | A | <p>○進路だより発行～1学期2回、2学期3回、3学期2回予定<br/>⇒卒業生の様子について、積極的に発信できた。<br/>○みらいカフェ ～1学期12名、2学期5名参加<br/>⇒個別のケースに応じて相談ののったり、保護者同士の集いの場として進路についての話をしたりできた。<br/>○進路研修会 ～年間計画に沿って実施<br/>⇒進路についての学習に合わせて、保護者に案内を出した。</p> <p>⇒引き続き、生徒や保護者、担任と直接話をする中で、ニーズを把握し、個のケースに応じた適切な進路情報を提供していきたい。</p>  |
| 人数(%)   | 1     | 2  | 3  | 4  | 5   |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| 自己      | 2     | 2  | 0  | 0  | 0   |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| %       | 50%   | 50%  | 0%   | 0%   | 0%  |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| 全体      | 18    | 26   | 0  | 0  | 1   |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| %       | 40%   | 58%  | 0%   | 0%   | 2%  |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| 中間%     | 35%   | 64%  | 0%   | 0%   | 1%  |    |  |       |   |   |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |
| 学校運営全般  |       | <p>①「対話を通した学校づくり」（豊かな心・コミュニケーション）<br/>◇めざす学校の姿 「健康で安全・安心に生活できる学校」<br/>◇めざす児童生徒の姿 「礼儀正しく、思いやりのある児童生徒」<br/>◇めざす教職員の姿 「確かな人権感覚をもち、豊かな人間性あられる教師」</p> <p>*自立活動を中心に全教育活動、日々の学習の中で、伝えたい思いを育て伝える手段を豊かにする。<br/>*相手に「伝える」「伝わる」を確認し、相手を思いやり、理解しようとする姿勢で対話をする。<br/>*人権意識を高め、<b>お互いを尊重し合いながら、安心できる関係性の中で対話ができる教職員集団</b>をめざす。</p> <p>②研修による専門性の向上・OJTによる学び合い、高め合う教職員集団をめざす。<br/>・自己目標に自身の重点をおきたいテーマを掲げ、研修や実践につなげる。</p> <p>※今年度のキーワードは「継続 発信!!」～誰に何をどのように伝えるかを考えよう。<br/>・行事等の後は、HP掲載へ：掲載したことを教職員・保護者へ知らせる。<br/>・保護者へ児童生徒の姿の伝えの具体化、見える化に努める。</p> |  |  |     |    |  |       |   | <p>①について<br/>○重点目標の柱に「対話」を置き、意識したことで、教職員間のコミュニケーションが図られ、関係性を高めることができた。<br/>○児童生徒への指導についても、「対話」（コミュニケーション）を引き続き重点をおくことで各学部や分掌において取り組みが推進された。<br/>⇒・現状の児童生徒には、引き続き重点をおいた指導が求められるため、来年度も引き続き取り組みを継続したい。</p> <p>②について<br/>・専門性の向上については、研修に対する意識を高められるよう、授業公開が充実できるように考えたい。<br/>・校内のOJT体制を整え、研修したい内容について、職員同士で自主的に研修できる場が設定できると良い。</p> <p>③について<br/>・発信への意識を高め、発信に実践が積み重ねられている。<br/>負担感のない程度に、今後も継続したい。何をどう伝えるかアップしていけると良い。</p> <p>その他について<br/>◆今年度は、常勤講師の配置が確保できず、非常勤講師で対応したため、教員の負担が増えた。<br/>○教職員の連帯により、学部を越えた連携体制により、児童生徒の指導体制が取れた。<br/>・非常勤講師との打ち合わせや授業準備の時間確保には、配慮ができるようにしたい。</p> |   |   |   |    |   |   |   |   |   |   |     |      |    |    |    |    |    |    |   |   |   |   |     |     |    |    |    |     |     |     |    |    |    |   |   |  |